

英語学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	中村 太一	3	火曜4限
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	中村 太一	4	火曜4限
英語学基礎講読	形態論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	金曜1限
英語学基礎講読	形態論入門Ⅱ	2	島 越郎	4	金曜1限
英語解析学各論	英語学の諸問題研究Ⅰ	2	島 越郎、中村 太一	5	水曜2限
英語学講読	英語学の思考法Ⅰ	2	中村 太一	5	水曜4限
英語学講読	英語学の思考法Ⅱ	2	中村 太一	6	水曜4限
英語学演習	統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	5	木曜2限
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	島 越郎、中村 太一	6	水曜2限
英語学演習	統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	6	木曜2限

科目名：英語学概論

曜日・講時：火曜 4 限

semester：3 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英語統語論入門 I

2・授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史的変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

- 3. 学習の到達目標：**1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
3) 英語の歴史的変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：導入
- 第2回：英語の普遍性と特殊性
- 第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論
- 第4回：英語音声の基本的特徴
- 第5回：英語の綴り字と発音
- 第6回：英語のリズムとイントネーション
- 第7回：文をつくる規則：句構造規則
- 第8回：句構造規則と文法
- 第9回：構成素について
- 第10回：樹形図と構造関係
- 第11回：構造関係に基づく文法原理
- 第12回：文、樹形図、文法原理の関係
- 第13回：品詞と歴史的変化
- 第14回：語彙と意味の歴史的変化
- 第15回：まとめ

5. 成績評価方法：副読本の内容確認テスト (50%), 期末レポート (50%)

6. 教科書および参考書：教科書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書：

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

7. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

副読本の内容確認テストについては初回の講義で説明する。

科目名：英語学概論

曜日・講時：火曜 4 限

Semester：4 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB42402, 科目ナンバリング：LHM-LIN201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英語統語論入門 II

2・授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

- 3. 学習の到達目標：**1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：導入
- 第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン
- 第3回：音韻・意味素性、主要部、句について
- 第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化
- 第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化
- 第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割
- 第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い
- 第8回：複文構造の歴史的变化
- 第9回：発音されない代名詞と歴史的变化
- 第10回：名詞句の構造と歴史的变化
- 第11回：句構造規則から X バー理論へ
- 第12回：Wh 疑問文における移動操作
- 第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化
- 第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点
- 第15回：まとめ

5. 成績評価方法：副読本の内容確認テスト（50%）、期末レポート（50%）

6. 教科書および参考書：教科書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考：

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

7. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

副読本の内容確認テストについては初回の講義で説明する。

科目名：英語学基礎講読

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB35101, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：形態論入門 I

2. 授業の目的と概要：自然言語で用いられている語の成り立ちを分析する形態論の入門書を読み、形態論の基本的考え方を学ぶ。

3. 学習の到達目標：語形成に関する言語現象を実際に分析することにより、形態論に関する基本的な概念や用語を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス： What is Morphology?
- 2 Words, Dictionaries, and the Mental Lexicon (1)
- 3 Words, Dictionaries, and the Mental Lexicon (2)
- 4 Lexeme Formation: The Familiar (1)
- 5 Lexeme Formation: The Familiar (2)
- 6 Lexeme Formation: The Familiar (3)
- 7 Lexeme Formation: The Familiar (4)
- 8 Productivity and Creativity (1)
- 9 Productivity and Creativity (2)
- 10 Productivity and Creativity (3)
- 11 Productivity and Creativity (4)
- 12 Lexeme Formation: Further Afield (1)
- 13 Lexeme Formation: Further Afield (2)
- 14 Lexeme Formation: Further Afield (3)
- 15 Lexeme Formation: Further Afield (4)

5. 成績評価方法：学期末レポート

6. 教科書および参考書：Rochelle Lieber (2022) *Introducing Morphology*, Cambridge University

7. 授業時間外学習：予習では、自分のわからない箇所を明らかにした上で授業に臨む。

復習では、授業で学んだ考え方を具体的な言語現象に当てはめて考えてみる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学基礎講読

曜日・講時：金曜 1 限

semester：4 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB45102, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：形態論入門 II

2. 授業の目的と概要：前期に引き続き、自然言語で用いられている語の成り立ちを分析する形態論の入門書を読み、形態論の基本的考え方を学ぶ。

3. 学習の到達目標：語形成に関する言語現象を実際に分析することにより、形態論に関する基本的な概念や用語を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 Inflection (1)
- 3 Inflection (2)
- 4 Inflection (3)
- 5 Typology (1)
- 6 Typology (2)
- 7 Typology (3)
- 8 Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (1)
- 9 Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (2)
- 10 Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (3)
- 11 Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (1)
- 12 Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (2)
- 13 Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (3)
- 14 Theoretical Challenges (1)
- 15 Theoretical Challenges (2)

5. 成績評価方法：学期末レポート

6. 教科書および参考書：Rochelle Lieber (2022) *Introducing Morphology*, Cambridge University

7. 授業時間外学習：予習では、自分のわからない箇所を明らかにした上で授業に臨む。
復習では、授業で学んだ考え方を具体的な言語現象に当てはめて考えてみる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語解析学各論

曜日・講時：水曜 2 限

semester：5 単位数：2

担当教員：島 越郎、中村 太一

コード：LB53201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 I

2・授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

3. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 15) Summary

5. 成績評価方法：期末レポート

6. 教科書および参考書：取り上げる論文はクラスルームで前もって通知する。

7. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学講読

曜日・講時：水曜 4 限

semester：5 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB53407, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英語学の思考法 I

2・授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、文献を正確に読む能力を育成するとともに、生成文法統語論の基本的な概念の理解を目指す。

3. 学習の到達目標：①生成文法統語論の思考法や研究方法論を理解する
②批判的に英文を読む力を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当教員による講義、担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス

第2回：統語論における機能範疇の中心的な役割 (1)：投射の均一性と統語操作の原動力

第3回：統語論における機能範疇の中心的な役割 (2)：言語変異と統語論のカートグラフィー

第4回：機能投射の地図 (1)：CP 領域での言語現象

第5回：機能投射の地図 (2)：CP 領域における基準の位置

第6回：機能投射の地図 (3)：CP 領域の普遍性と多様性

第7回：機能投射の地図 (4)：IP 領域①：法・時制・相

第8回：機能投射の地図 (5)：IP 領域②：副詞

第9回：機能投射の地図 (6)：DP の拡大投射

第10回：機能投射の地図 (7)：PP と AP の拡大投射

第11回：機能範疇の種類と分布 (1)：領域 (拡大投射) 間の機能投射の違い

第12回：機能範疇の種類と分布 (2)：機能範疇の機能とその種類

第13回：機能範疇の種類と分布 (3)：機能範疇主要部に与えられる語彙的信息

第14回：機能範疇の種類と分布 (4)：機能範疇と語彙範疇の境界

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表とディスカッションへの参加 (40%)，期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：テキスト：

Rizzi, Luigi and Guglielmo Cinque (2016) “Functional Categories and Syntactic Theory,” Annual Review of Linguistics 2, pp. 39-63.

7. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する (2 時間)。授業後は、内容を確認し問題点について理解を深める (2 時間)。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学講読

曜日・講時：水曜 4 限

semester：6 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LB63402, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英語学の思考法Ⅱ

2・授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、文献を正確に読む能力を育成するとともに、生成文法統語論の基本的な概念の理解を目指す。

3. 学習の到達目標：①生成文法統語論の思考法や研究方法論を理解する
②批判的に英文を読む力を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当教員による講義、担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス

第2回：副詞の分布に対する作用域に基づく理論 (1)：作用域に基づく理論の外観

第3回：副詞の分布に対する作用域に基づく理論 (2)：speaker-oriented adverbs と subject-oriented adverbs の分布

第4回：副詞の分布に対する作用域に基づく理論 (3)：exocomparative adverbs と domain adverbials の分布

第5回：副詞の分布に対する作用域に基づく理論 (4)：functional adverbials の分布

第6回：副詞の分布に対する作用域に基づく理論 (5)：participant PPs の分布と functional adverbs の語順の自由度

第7回：意味以外の要因 (1)：「重さ」に関する制約

第8回：意味以外の要因 (2)：統語的制約

第9回：作用域に基づく理論の問題点 (1)：経験的問題

第10回：作用域に基づく理論の問題点 (2)：理論的問題

第11回：カートグラフィーに基づく理論とその問題点 (1)：カートグラフィーに基づく理論の外観

第12回：カートグラフィーに基づく理論とその問題点 (2)：生起位置と意味の間の一対一対応に関する問題

第13回：カートグラフィーに基づく理論とその問題点 (3)：主要部移動の問題

第14回：カートグラフィーに基づく理論とその問題点 (4)：右方付加の問題

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表とディスカッションへの参加 (40%)、期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：テキスト：Ernst, Thomas (2020) "The Syntax of Adverbials," Annual Review of Linguistics 6, 89-109.

7. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する (2 時間)。授業後は、内容を確認し問題点について理解を深める (2 時間)。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学演習

曜日・講時：木曜 2 限

semester：5 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB54207, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：統語論入門 I

2・授業の目的と概要：生成文法による自然言語の分析に関する入門書を用い、語や文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

3. 学習の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 Introduction: What Linguistics Is About and What Syntax Is About (1)

3 Introduction: What Linguistics Is About and What Syntax Is About (2)

4 Tacit Knowledge (1)

5 Tacit Knowledge (2)

6 Tacit Knowledge (3)

7 Constituents and Categories (1)

8 Constituents and Categories (2)

9 Constituents and Categories (3)

10 Phrase-Structure Rules and Constituency Tests (1)

11 Phrase-Structure Rules and Constituency Tests (2)

12 Phrase-Structure Rules and Constituency Tests (3)

13 X⁰-theory (1)

14 X⁰-theory (2)

15 X⁰-theory (3)

5. 成績評価方法：授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：Ian Roberts (2023) *Beginning Syntax: An Introduction to Syntactic Analysis*, Cambridge University Press.

7. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと。授業後は、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学演習

曜日・講時：水曜 2 限

semester：6 単位数：2

担当教員：島 越郎、中村 太一

コード：LB63202, 科目ナンバリング：LHM-LIN310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 II

2・授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

3. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 15) Summary

5. 成績評価方法：期末レポート

6. 教科書および参考書：取り上げる論文はクラスルームで前もって通知する。

7. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学演習

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：島 越郎

コード：LB64201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：統語論入門 II

2・授業の目的と概要：前期に引き続き、生成文法による自然言語の分析に関する入門書を読み、語や文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

3. 学習の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 Movement (1)

3 Movement (2)

4 Movement (3)

5 Movement (4)

6 Binding (1)

7 Binding (2)

8 Binding (3)

9 Binding (4)

10 Syntax beyond English (1)

11 Syntax beyond English (2)

12 Syntax beyond English (3)

13 The Architecture of Grammar (1)

14 The Architecture of Grammar (2)

15 The Architecture of Grammar (3)

5. 成績評価方法：授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：Ian Roberts (2023) *Beginning Syntax: An Introduction to Syntactic Analysis*, Cambridge University Press.

7. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと。授業後は、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：